

はじめに

図書館で興味深い本を見つけた。マインドコントロールに関する本だった。面白かったので延べ四時間くらいで読破してしまったのだが、この本を面白い、興味深いと思ったのにはわけがある。何を隠そう、この私も過去にこれと似た体験をことがあるからだ。

「マインドコントロール」という言葉は、山崎浩子の統一教会脱会の記者会見時に使われて一般的になったのだが、僕の場合は宗教でなく、「自己啓発セミナー」と呼ばれるものを受ける過程でそうになっていった。

自己啓発セミナー。みなさんも経験のある人が少なからずいると思う。知人や職場の人がある日を境に人が変わったように朗らかで積極的に、あるいはカラ元気を出すようになり、「すばらしい体験をした」とか「自分の殻を破れる」とか言って「お前もやってみろ、やるべきだ」などと執拗に勧誘してくる、という体験をしたことがないだろうか。そう、私もその「勧誘する側」に立ったことがあるのだ。

セミナーには「内容を他人に話してはならない」というルールがあるのだが、そこに潜むのはマインドコントロールであり、人生を変えかねない危険なものであり、これを避けることのほうがはるかに重要である。よって以下の理由を根拠に、私の体験を公開することとする。

- ・セミナー会社名を特定していないこと。
- ・表現の自由は、日本国憲法第二十一条において保障されていること。

さすがに16年も前のことになると、日常の記憶は薄れてしまうが、マインドコントロールに直接関与する重要な箇所は今なお強烈に脳裏に焼きついており、それらだけでも自己啓発セミナーのマインドコントロール体験としては十分なものとなったと自負している。

文章は主観を極力省くためにできるだけ客観的にするようにつとめている。登場人物も可能な限り匿名とさせていただいた。ただし話の展開上必要な場合は適宜主観を交えている。また、セミナーの最終段階については、自分の日常生活がベースとなるので、どうしても主観的にならざるを得ず、その点をご勘弁願いたい。

この文章をお読みになった方それぞれが、セミナーについてどのような印象を持つかま

では、私は強制できない。ご判断は読者の方々にゆだねたいと思っている。しかしただひとつお願いしたいのは、この文章を読んでセミナーへの参加を希望された方がいたとしても、私を「紹介者」にすることはご勘弁いただきたい。文章については判断の余地を皆さんに残すために、可能な限り客観性を持たせてはいるが、勧誘の片棒を担ぐことだけはご免こうむりたい。私はこの勧誘活動にこそ自己啓発セミナーの最大の問題があると考えているからだ。

この文章が、閉鎖的で中身が見えにくい自己啓発セミナーという世界について理解する一助となれば幸いです。